

論文審査の要旨

筆頭著者（学位申請者）氏名

御影 秀徳

主論文の題目
および

掲載誌・審査委員

題目 感染症にて入院を要した関節リウマチの臨床的特徴

掲載誌 聖マリアンナ医科大学雑誌 2015; 43: 123-132

主査 高田 礼子

副査 遊道 和雄

副査 竹村 弘

[論文の要旨・価値]

関節リウマチ (rheumatoid arthritis: RA) 患者では治療経過で発症する感染症が問題となるが、感染症のリスク因子については明らかでない点が多い。本研究では、感染症に罹患した RA 患者の特徴を明らかにすることを目的として、2007年4月から2012年3月までに本学リウマチ・膠原病・アレルギー内科に感染症で入院加療を要した RA 患者 79 例（感染症群）および性・年齢を合わせて無作為抽出した外来通院の非感染 RA 患者 79 例（対照群）について、患者背景（臨床像、併存疾患、治療等）、血液検査データ等を比較し、感染症のリスク因子について検討した。感染症の内訳は、肺・上気道感染症が 57 件（52.3%）と最も多く、次いで尿路感染症が 13 件（11.9%）と多かった。肺・上気道感染症のうち細菌性肺炎が 26 件と最も多く、次いでニューモシスチス肺炎が 16 件と多かった。感染症群は対照群と比較してメソトレキサート (methotrexate: MTX) 投与例が少なく、プレドニゾロン (prednisolone: PSL) 投与例および投与量が有意に多かった ($p < 0.001$)。また、感染症群は対照群と比較して血清アルブミン値が有意に低く、多変量解析においても低アルブミン血症は有意なリスク因子であった ($p < 0.001$)。なお、感染症群では、発症時だけでなく発症 1 ヶ月前の血清アルブミン値も対照群と比較して有意に低下していた ($p < 0.05$)。一方、感染症群 79 例のうち、複数回感染が 20 例 42 件認められ、その内訳として肺・上気道感染症が多かった。複数回感染群は、単回感染群と比較して、間質性肺炎の合併、PSL 投与量が多く、これらは多変量解析においても有意なリスク因子であった ($p < 0.05$)。以上の結果より、本研究は、RA 患者における感染症発症のリスク因子として低アルブミン血症が存在すること、さらに、間質性肺炎の合併、PSL 投与量が感染症を繰り返すリスク因子にもなることを示し、すなわち RA 患者の治療中の感染症予防に有用な知見を明らかにしていることから、臨床的に価値の高い論文であると判断した。

[審査概要]

審査は平成 27 年 12 月 10 日に主査、副査 2 名、指導教授および 1 名の陪席のもと行われた。PC による約 20 分間のプレゼンテーションの後、質疑応答が行われた。審査のなかで、感染症のリスクが上がる血清アルブミン値、併存疾患の評価指標、MTX 単独と PSL、生物学的製剤との併用療法での差異、難治性感染症例の有無、ニューモシスチス肺炎予防のための ST 合剤内服、今後の研究の展望等について質問があり、申請者は概ね適切な回答をしていた。英語読解力については本研究に関連する英文論文の一部についてその場で和訳してもらうことで評価し、十分な読解力を有すると判断した。

最終試験結果の要旨

[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価]

上記の研究発表および質疑応答から、申請者は当該研究領域に関する専門的知識を有し、十分な研究能力および研究発表能力があると判断した。さらに十分な英語読解力も有していた。また、審査では常に真摯な態度で、礼儀正しく、学位授与に値する人物であると評価した。